

新規事業採択時評価結果(令和8年度新規事業化箇所)

担当課： 道路局 環境安全・防災課
 担当課長名： 水野 宏治

事業の概要

事業名	高規格ICアクセス 主要地方道 成田松尾線 成田空港周辺IC(仮称)	事業区分	地方道	事業主体	千葉県
起終点	自:千葉県山武郡芝山町菱田 至:千葉県香取郡多古町間倉			延長	2.6km

事業概要

成田空港周辺IC(仮称)は、首都圏中央連絡自動車道(圏央道)と主要地方道成田松尾線を連結するICである。当該事業は、第3滑走路の新設や新貨物地区の整備など「第2の開港プロジェクト」が進む成田空港へのアクセス強化や空港周辺地域の活性化を図るため、成田空港と圏央道を直結し、最短でアクセスする新たなインターチェンジを整備するものである。

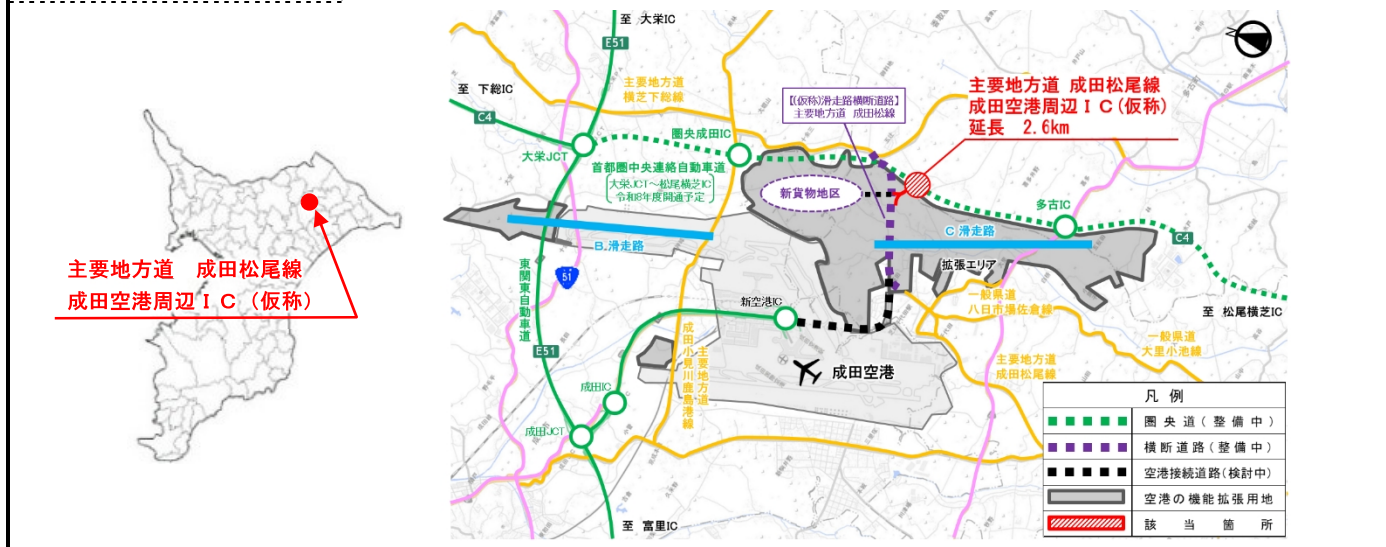
事業の目的、必要性

当該事業の整備により、圏央道へのアクセス向上・物流効率化が図られ、国際競争力の強化につながるとともに、広域的な交通の利便性が向上し、定住人口の増加や企業立地の促進・雇用創出により、地域の活性化が図られる。第3滑走路の新設など「成田空港の拡張事業」は2028年度末の完了を目指すとともに、『新しい成田空港』構想における新貨物地区の整備は2030年代初頭での供用と示されており、圏央道の整備効果や「第2の開港プロジェクト」の効果を広域へ波及させ、地域の活性化を図るためにも、早期に整備を進める必要がある。

全体事業費： 約72億円

計画交通量： 約10,400台/日

事業概要図



関係する地方公共団体等の意見

当該 IC の整備は、地域活性化、災害時の円滑な物資輸送や救援活動の支援ルートの確保、医療関係のアクセス向上が期待されており、横芝・神崎間首都圏中央連絡自動車道建設促進協議会(成田市、山武市、横芝光町、多古町、芝山町、神崎町)からも早期整備の要望(令和7年10月28日)を受けている。

学識経験者等の第三者委員会の意見

千葉県県土整備公共事業評価審議会(令和7年10月14日)において、事業着手は妥当であると了承。

対応方針(採択理由)

費用便益費が2.4と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。また、圏央道へのアクセス向上や国際競争力の強化、まちづくり・救急医療の支援等、地域活性化の効果が期待できることから、当該 IC の整備の必要性・効果は高いものと判断される。以上により、本事業は令和8年度新規事業箇所として妥当である。

事業評価結果(総合評価)

事業採択の前提条件	
<input checked="" type="checkbox"/> 便益が費用を上回っている <input checked="" type="checkbox"/> 事業実施環境が整っている	

費用 便益分	B/C		(参考)	EIRR	総費用	99億円	総便益	240億円	感度分析	基準年
	(参考)	[4%]	2.4		11.3%	事業費: 78億円 維持管理費: 21億円 更新費: - 億円	走行時間短縮便益: 210億円 走行経費減少便益: 28億円 交通事故減少便益: 2.6億円		交通量変動	B/C=2.2~2.7 (変動ケース: ±10%)
	[2%]	3.3	事業費変動	B/C=2.2~2.6 (変動ケース: ±10%)						
	[1%]	3.9	事業期間変動	B/C=2.3~2.4 (変動ケース: ±20%)						

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したものの、
 ※B/Cは を対象とした場合の値、()書きの値は事業化区間を対象にした場合の費用便益分析結果。
 ※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。()内は社会的割引率の値

事業の影響	評価項目		評価	根拠
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	—	・注目すべき影響はない。
事故対策		○	・当該ICの整備により、一般道への大型車の流入が減少し、重大事故の減少が期待される。 【(主)横芝下総線の大型車混入率】 整備前:22.6% → 整備後:17.5%(約5%減少)	
歩行空間		—	・注目すべき影響はない。	
社会全体への影響	住民生活	○	・第3次救急医療機関(成田赤十字病院、東千葉メディカルセンター)への救急搬送時間の短縮が図られ、救命率の向上や傷病者への負担軽減につながる。 【多古町間倉～成田赤十字病院(第3次救急医療機関)までの所要時間】 整備前:26分 → 整備後:23分(約3分短縮) 【多古町間倉～東千葉メディカルセンター(第3次救急医療機関)までの所要時間】 整備前:32分 → 整備後:26分(約6分短縮)	
	地域経済	◎	・国際空港である成田空港と圏央道を直結し、最短でアクセスすることにより、物流施設の利便性が向上し、物流の円滑化が図られ、成田空港の国際競争力の強化が期待される。 【新貨物地区～圏央成田IC】 整備前:19分 → 整備後:10分(約9分短縮) 【新貨物地区～多古IC】 整備前:15分 → 整備後:9分(約6分短縮)	
	災害	○	・防災拠点である成田空港にアクセスする高規格道路は東関東自動車道のみであるが、当該ICの整備により、圏央道からのアクセスも可能となり、救援物資の輸送機能が強化され、防災力の向上が期待される。	
	環境	—	・注目すべき影響はない。	
	地域社会	◎	・当該ICの整備により、広域的な交通の利便性が向上し、定住人口の増加や企業立地の促進・雇用創出につながり、地域の活性化が図られる。 ・当該ICの整備により、一般道への大型車の流入が減少し、周辺道路の騒音や振動の発生が減少し、沿線の住環境の向上が図られる。 【(主)横芝下総線の大型車混入率】 整備前:22.6% → 整備後:17.5%(約5%減少)	

事業実施環境	・横芝・神崎間首都圏中央連絡自動車道建設促進協議会(成田市、山武市、横芝光町、多古町、芝山町、神崎町)から早期整備の要望(令和7年10月28日)を受けている。
--------	---